

国際大学ネット学生セミナーを開催(広島大) 修士サマースクール・ワークシヨップも

広島大学は、INU(国際大学ネットワーク)加盟の世界10カ国12大学と協働して、国際的に平和を希求する地球市民を育成することを目的としたINU学生セミナーを去る8月5日から11日まで開催した。また、①平和、②環境、③看護の3分野における修士サマースクール・ワークシヨップも並行して実施し、国内、海外の学生・教職員など約180人が参加する大規模なイベントとなった。

学生セミナーでは、被爆者の体験講話、広島平和記念資料館見学、平和記念式典参列、INU加盟大学教員による講義やワークシヨップなどを行った。期間中、参加学生たちはグループに分かれて学習を重ね、最終日には世界9カ国の代表団に扮して「ジェンダー・平和・安全保障」をテーマとした模擬国連総会を開催し、白熱した議論を繰り広げた。

修士サマースクール・ワークシヨップでは、「地球市民と平和」「地球環境の持続性」「国際保健・看護」をテーマに、講演やワークシヨップ、フィールドワークなどを実施。参加学生たちは各自の専門分野の知見を深めつつ、世界各国からの参加学生との交流を深めた。

この行事に参加した世界各国の若者が、今後広島で築いた絆を強め、平和の尊さを再認識し、地球市民としての自覚を深めていくことが期待される。

短期交換留学プログラム留学生が研究発表(広島大)

広島大学では、短期交換留学プログラム(HUSA)の留学生による研究発表会を去る7月17日と同31日、東広島キャンパスの学生プラザで開催した。

2日にわたって行われた発表会では、14カ国27大学から留学生36人が発表を行い、広島大の西谷元副学長(国際担当)、堀田泰司副理事(国際担当)、HUSA担当の恒松直美国際センター准教授をはじめとする教職員が耳を傾けた。

大多数の発表は英語で行われたが、研究テーマは、それぞれの留学生が調査した日本に関するものとなった。日本の外交、異文化と言語、方言、自国と留学による日本語習得の相違、日本の英語教育、知的財産の保護、ロシアと日本における教育機関と教授方法の比較、日本とグローバル社会など多岐にわたったり、キャンパスや地域でインタビュー調査やフィールドワークを行った意欲的な研究もみられた。



HUSA交換留学生による研究発表

質疑応答では、参加者から質問が飛び交うなど、留学生にとって今回の発表会は、日本に関する研究への興味を喚起する有意義な機会となった。



質問が飛び交った質疑応答セッション



修士サマースクール(環境)分野のフィールドワーク



活発な意見交換が行われた模擬国連総会